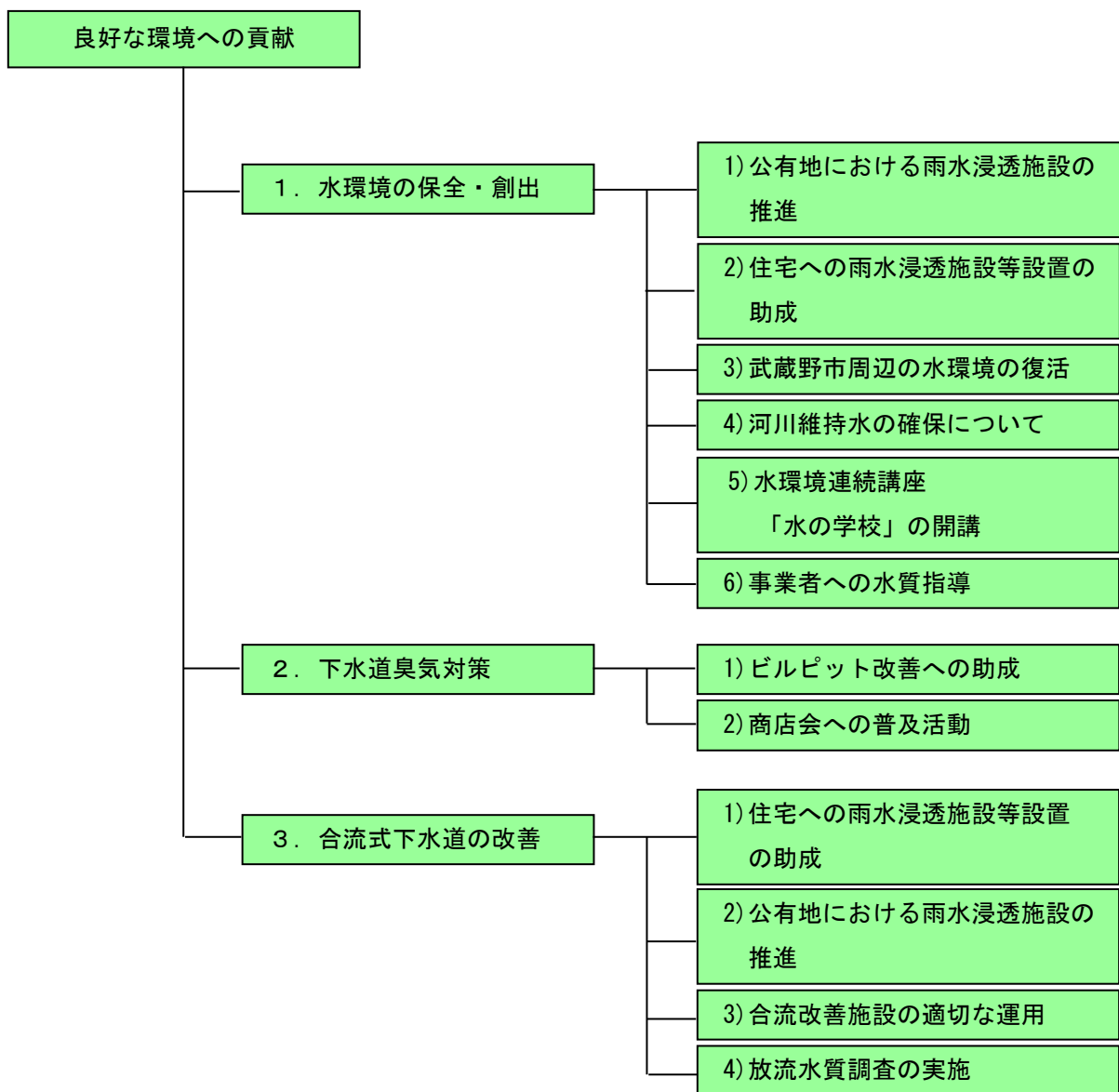


2. 良好な環境への貢献

本市は、下水道の普及促進に努めてきた結果、市内の水環境だけでなく、放流先の河川や東京湾の水質保全に大きく貢献してきた。

本項では、良好な環境へ貢献する下水道の方針・目標と施策を示す。

本市の下水道は、東京都及び関連市と連携した広域的な汚水処理と合流式下水道の改善によって、流域及び放流先の水環境を改善し、臭気対策や雨水浸透を促進するため、市民や地域と一体となった取り組みにより、良好な都市環境を保全・創出していく。



良好な環境への貢献に向けての施策体系

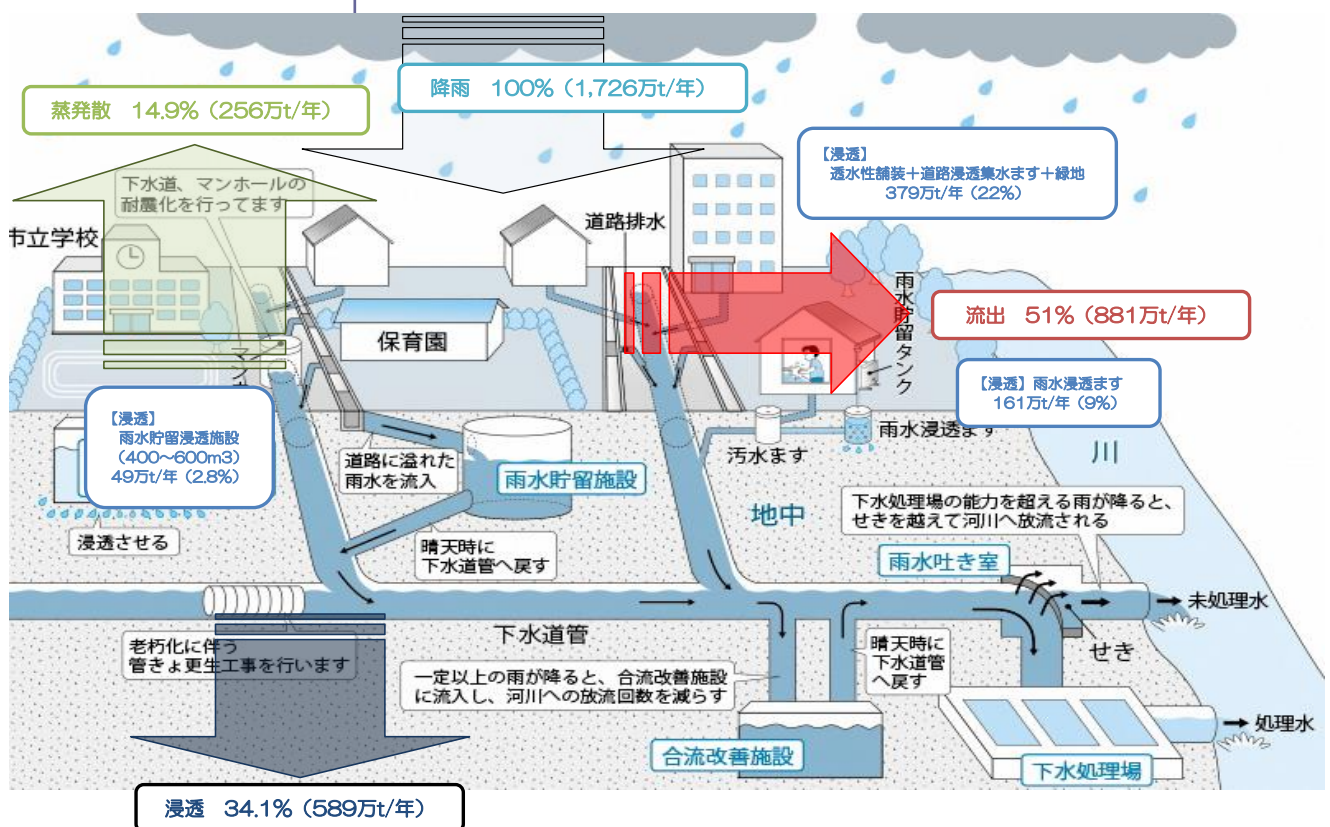
2. 1 水環境の
保全・創出
(1) 方針・目標

水環境の保全・創出は、浸水対策につながるのはもちろん、湧水の復活やヒートアイランド現象の緩和等、総合的な環境問題の解決にも資する。

今後は、雨水利活用条例に基づき、雨水浸透施設の設置や環境啓発の実施等を推進し、水循環の保全・創出に努める。

目標：水循環の保全・創出により、流出係数 0.40 を目指す

(参考：平成 29 年現在の流出係数→0.51)



—水収支イメージ図 (平成 29 年現在) —

用語:

【流出係数 0.40 へ向けた具体的な目標設定】

貯留浸透等 施設項目	平成 25 年度末 (前回見直し時)	平成 29 年度末 (今回見直し)	20 年後	30 年後
戸別浸透施設	8,000 戸	9,898 戸	19,200 戸	24,000 戸
校庭貯留 浸透施設	6,450m ³	8,050m ³	9,700m ³	9,700m ³
緑被率の向上	25.3%	24.3%	30.0%	30.0%
透水性舗装	14.2ha	16.8ha	41.4ha	61.8ha
浸透トレンチ	45,505m	48,941m	—	—
改良浸透樹	106m ³	198m ³	—	—
流出係数	0.52	0.51	0.44	0.40

※ 目標値

20 年後 (平成 45 年) → 0.44

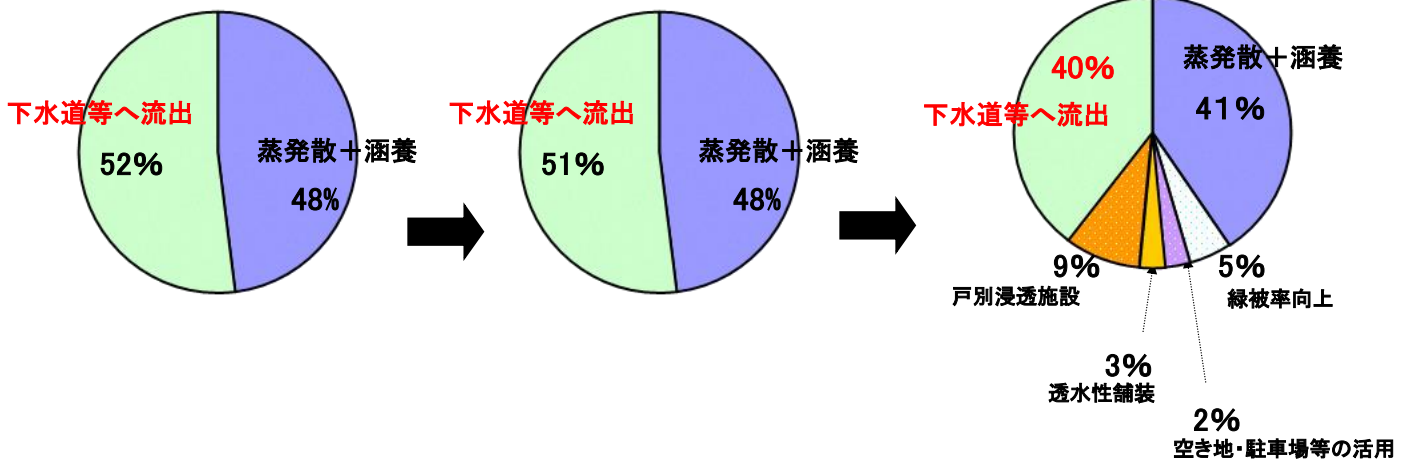
30 年後 (平成 55 年) → 0.40

(浸透施設別整備割合)

【平成 25 年度: 前回見直し時】

【平成 29 年度末: 今回見直し】

【30 年後: 流出係数 0.40 を目指して】



用語:

(2) 具体的な施策

1) 公有地における雨水浸透施設の推進（再掲）

市立小中学校等への雨水貯留浸透施設の設置や公園等の緑地の確保、さらに市内の約 15%の面積を占める道路に対し、透水性舗装を実施する等、雨水浸透を推進する。

2) 住宅への雨水浸透施設等設置の助成（再掲）

下水道管きよに流入する雨水を減らすため、住宅への雨水浸透施設等設置に関する助成を行う。

3) 武蔵野市周辺の水環境の復活

武蔵野市内には一級河川の仙川が、周辺には野川、善福寺川が流れており、また武蔵野市に隣接する井の頭池は、神田川の水源となっている。

これらの河川の上流域に位置する武蔵野市において、雨水浸透施設の設置を推進していくことで、雨水を地下へ涵養し、地下水の水質・水量の確保に取り組む。このことにより上記河川や井の頭池の水質改善・水量確保につなげ、水環境の確保・復活を目指す。

4) 河川維持水の確保について

武蔵野市を流れる唯一の一級河川である仙川については、都の境浄水場からの洗砂水や市の第二浄水場からの逆洗水等を送水している。

今後は、下流の三鷹市内で水量が復活する地点まで流れが途切れないための方策についても検討する。

5) 水環境連続講座「水の学校」の開講

平成 26 年度に、下水道の役割、重要性、魅力、可能性等に気づき、共感し、行動してもらうための取り組みとして、連続講座「水の学校」をスタートした。

視察やワークショップ形式による参加型講座で、卒業生の一部がサポーターとして次年度以降の運営を手伝う方式により、市民等の自発的な行動を促す。

6) 事業者への水質指導

有害物質の下水道管きよへの流入防止を図るため、工場や事業場等の事業者に対し、水質管理者の選任・水質測定の実施等について継続的に指導を行う。また、東京都と連携しながら、事業者への立ち入り検査及び水質検査（年4回）を行う。



水質調査業務

2. 2 下水道臭気対策

(1) 方針・目標

吉祥寺駅周辺等のイメージアップと快適なまちづくりのため、これまでの臭気調査結果に基づき、外国人観光客の来街が見込まれる平成 32 年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、助成制度等を通じて臭気対策を行う。



多くの人で賑わう吉祥寺駅前

目標：平成 32 年度までに吉祥寺駅周辺の下水道臭気対策を完了させる

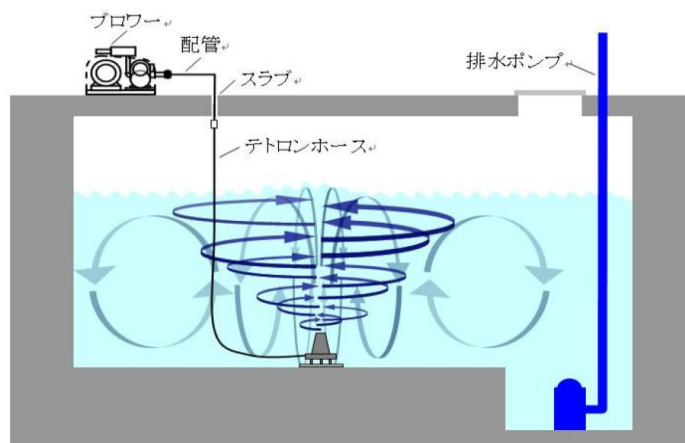
(2) 具体的な施策

1) ビルピット改善への助成

臭いの発生源であるビルピットの臭気対策に対し、助成を行う。なお、平成 29 年度から助成金額を増額した。

2) 商店会への普及活動

臭気問題を地域全体で共有するために、吉祥寺活性化協議会と協力し、建物所有者に対して積極的な PR を行う。



ビルピット内臭気対策例

2. 3合流式下水道の改善

(1) 方針・目標

合流式下水道は、汚水と雨水を同じ管きよで流す構造になっているため、雨天時には未処理下水の一部が雨水吐から公共用水域へ放流されてしまう問題があった。そのため、本市は未処理下水やごみ（きょう雑物）等を削減するための対策（合流改善対策）を積極的に推進し、神田川や善福寺川流域の水質向上や東京湾の水環境保全に貢献してきた。今後も吐口における水質調査を継続的に実施し、未処理下水の放流の監視を行っていく。

目標：雨水浸透施設設置のさらなる促進

目標：雨天時放流水の監視強化

(2) 具体的な施策

1) 公有地における雨水浸透施設の推進（再掲）

市立小中学校等への雨水貯留浸透施設の設置や公園等の緑地の確保、さらに市内の約15%の面積を占める道路に対し、透水性舗装を実施する等、雨水浸透を推進していく。

2) 住宅への雨水浸透施設等設置の助成（再掲）

下水道管きよに流入する雨水を減らすため、住宅への雨水浸透施設等設置に関する助成を行う。

3) 合流改善施設の適切な運用

合流式下水道改善対策として整備した貯留施設及びきょう雑物除去施設等について、計画的な脱臭設備の交換等による維持管理、適切な運用を行い、快適な環境を確保する。

4) 放流水質調査の実施

合流改善対策による効果を把握するために、年1回の水質調査を実施する。



モニタリング調査